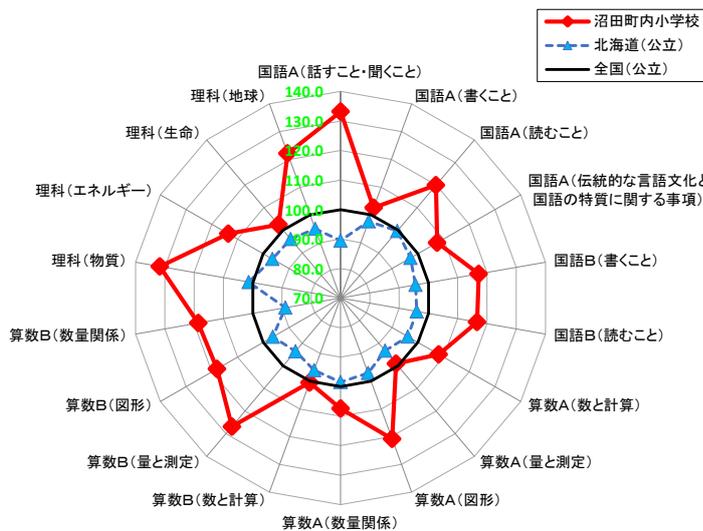


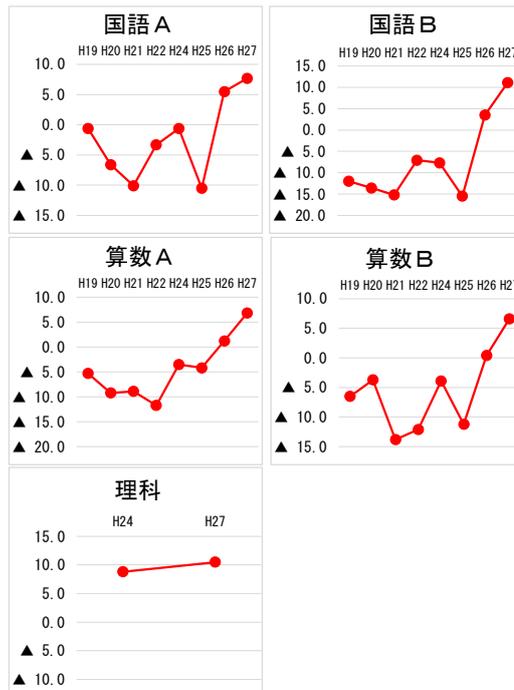
■沼田町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:1、児童数:17名)

【教科全体の状況】

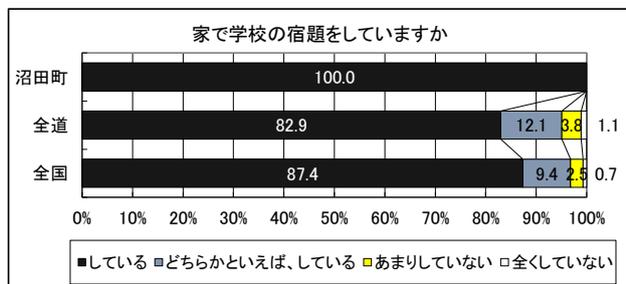
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



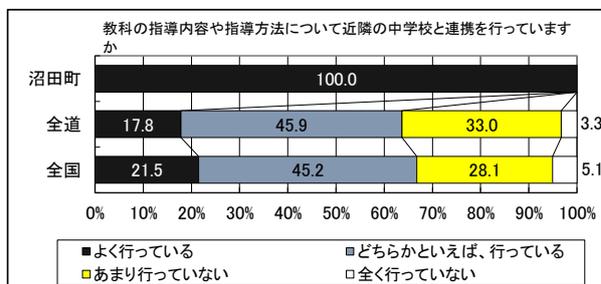
【平均正答率の全国との差の推移】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語A・Bともに、全ての領域で全国及び全道を上回っている。 ○ 算数Aでは「数と計算」、「図形」、「数量関係」、算数Bの全ての領域で全国及び全道を上回っている。 ○ 理科では全ての領域で全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習の焦点化」「学習規律の徹底」「ノート指導の徹底」「家庭学習の習慣化」に取り組んだ結果、児童の基礎・基本の定着につながり、全国学力・学習状況調査における全国の平均正答率下位約25パーセントの範囲に相当する児童の割合が減ったと考えられる。また、国語A及び国語Bの全ての領域、算数Aの「数と計算」、「図形」、「数量関係」、算数Bの全ての領域、理科の全ての領域で、全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で学校の宿題をしていますか」という質問に対して、「している」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す児童生徒像を小中学校・家庭・地域で確認し、教育振興会生活グループや家庭地域部会による組織的な生活習慣の改善・定着の取組を推進してきた結果、生活リズムの定着が図られ、家庭学習の習慣も定着してきた。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携をよく行った。 	

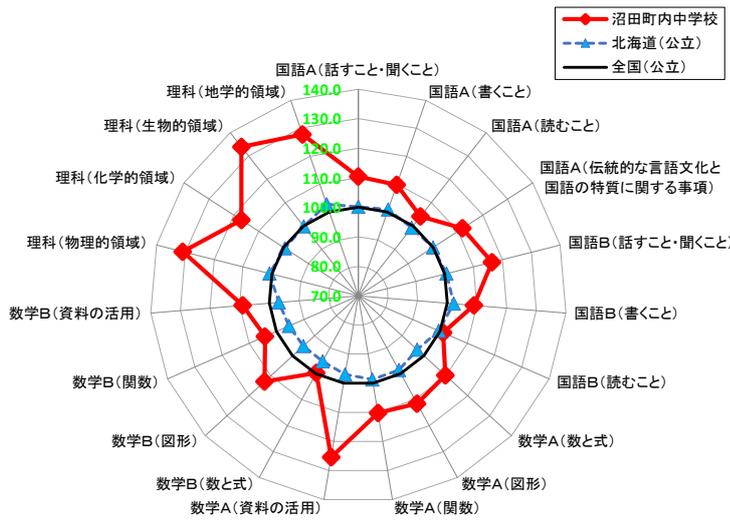
【沼田町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育を推進するため、教職員が協働する体制づくり①年7回の全体研修及び公開研究大会の開催 ②合同授業、乗り入れ授業、体験登校の実施 ③教育委員会によるバックアップ体制の整備 ④PTAと連携した生活リズムの改善
- ◎ 小中学校における「学習ガイド」「基本的な指導内容」等で連携した指導
- ◎ 電子黒板や実物投影機、タブレットPCの導入及び活用による授業改善
- ◎ 学習サポート事業「明日萌」(週1回)、長期休業学習サポート事業「夏季・冬季明日萌」(各5回)の実施
- ◎ 「お家で学ぼう」(家庭学習ハンドブック)の利用による家庭学習の啓発
- ◎ 英語指導(姉妹都市カナダのポートハーディーへの中学生の派遣)、英語検定・漢字検定全額補助、教育振興会家庭地域部会による生活習慣改善の取組

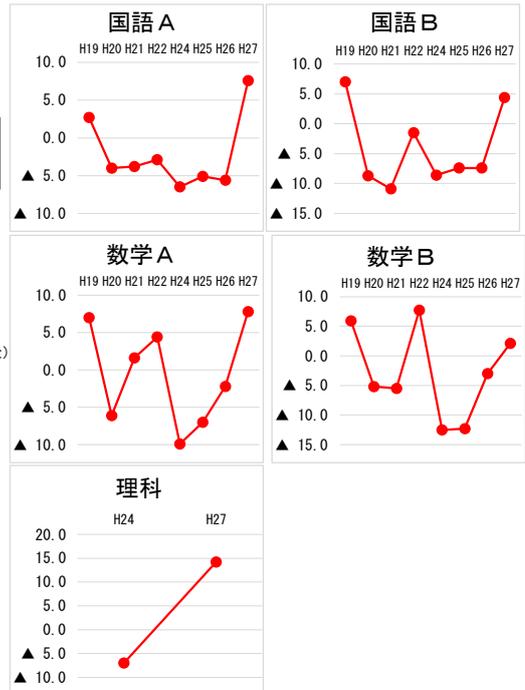
■沼田町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1、生徒数:25名)

【教科全体の状況】

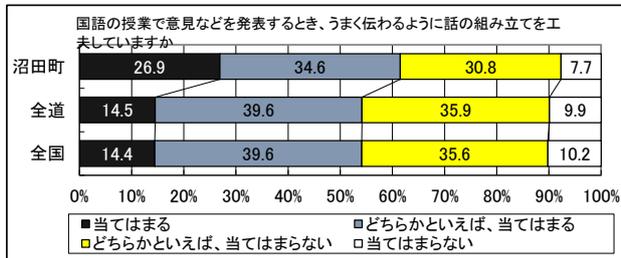
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



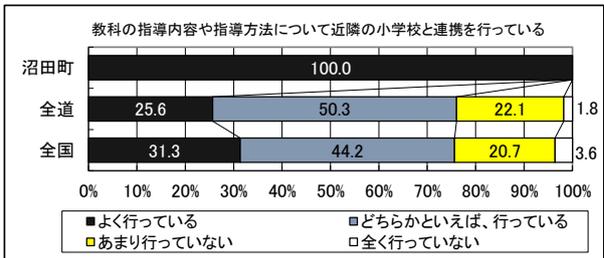
【平均正答率の全国との差の推移】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語A・Bともに、全ての領域で全国及び全道を上回っている。 ○ 数学Aでは全ての領域、数学Bの「図形」、「関数」、「資料の活用」で全国及び全道を上回っている。 ○ 理科では全ての領域で全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣の小学校と連携し、「学習ガイド」「基本的な指導内容」等の指導を行った。さらに、「よさ」を伸ばし、「発達段階に応じた言語活動」に取り組んだ。その結果、基礎・基本の定着につながり、全国学力・学習状況調査における全国の平均正答率下位約25パーセントの範囲に相当する生徒の割合が減ったと考えられる。また、国語A及び国語Bの全ての領域、数学Aの全ての領域、数学Bの「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域、理科の全ての領域で、全国及び全道を上回ったと考えられる。 ○ 目指す児童生徒像を小中学校・家庭・地域で確認し、教育振興会生活グループや家庭地域部会による組織的な生活習慣の改善・定着の取組を推進してきた。その結果、生活リズムの定着が図られ、家庭学習の習慣も定着し、全教科で平均正答率の全国との差が縮まり、さらには、全教科で全国より高くなったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携をよく行った。 	

【沼田町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育を推進するため、教職員が協働する体制づくり①年7回の全体研修及び公開研究大会の開催 ②合同授業、乗り入れ授業、体験登校の実施 ③教育委員会によるバックアップ体制の整備 ④PTAと連携した生活リズムの改善
- ◎ 小中学校における「学習ガイド」「基本的な指導内容」等で連携した指導
- ◎ 電子黒板や実物投影機、タブレットPCの導入及び活用による授業改善
- ◎ 学習サポート事業「明日萌」(週1回)、長期休業学習サポート事業「夏季・冬季明日萌」(各5回)の実施
- ◎ 「お家で学ぼう」(家庭学習ハンドブック)の利用による家庭学習の啓発
- ◎ 英語指導(姉妹都市カナダのポートハーディーへの中学生の派遣)、英語検定・漢字検定全額補助、教育振興会家庭地域部会による生活習慣改善の取組